

国語科学習指導案

単元名：

「やまなし」

(全○時間扱い中 第○時)

授業日時 令和3年11月15日(月)第1校時

授業学級 6年1組

授業会場 6年1組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立てとねらい)

かげの棒を見たいと願った子どもたちが、どうしたらかげの棒ができるのか水槽を使って調べる活動を通して、水中の光が遮られてかげの棒ができることに気づき、宮沢賢治とやまなしの理解を深めることができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの動き	・指導 ※留意点 《教材》 【評価】	時間
導入	1. 幻灯機の外側にいることを再認識する。	・絵は難しいよ。 ・どんな絵を描けばいいかわからないから、絵を描くのはもういやだな。	・黒板に教科書の光のあみとかげの棒の一説の模造紙を提示し、前回のプリントを児童に返す。 ・前回の授業まで絵を描いたことを確認し、まだ幻灯機の外側にいる児童が多いことを指摘する。 ・光のあみとかげの棒がどんなものなのかと発問する。	10
	【学習問題】 かげの棒を見てみよう。		・川の中の映像を見せる。《電子黒板》 ・日光の黄金、光のあみを確認する。 ・かげの棒についての発言を取り上げる。でない場合はこちらから促し、なぜかげの棒ができないか発問する。	
	2. どうしたらかげの棒が見えるか予想する。	・光のあみはプールで見たことあるよ。 ・これが光のあみだ。 ・かげの棒がわからないな。 ・川の流が速すぎるんじゃないかな。 ・日光の黄金がごみに遮られて、かげが棒みたいに見えるんじゃないかな。	・どうしたらかげの棒ができるか予想を立てるよう促し、以下の材を提示する。《ワークシート》 ・予想を立てたところで、以下の材を提示し、班ごとに調べるよう促す。 《2種類の水槽、光源、ごみ》	
	【学習課題】 どうしたらかげの棒ができるのか調べてみよう。			
展開	3. 班ごとに水槽を使って棒のかげを調べる。	・暗いところでやろうよ。 ・ごみの影がわからないな。 ・川じゃないし、深さもわからないからこれじゃわからないよ。	・時間制限を設ける。 ・写真を撮りたい児童には、クロームブックで撮影するよう促す。 ・机間指導をしながら、児童の気づきを座席表にメモする。	15

	4. 調べて分かったことを全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の太陽とか川の深さとかじゃないと再現できないと思う。 ・今回は水槽だったからわからないけど、きっと川の底から見たらかげの棒が見えるはず。 ・このシーンは、かにの視点から見たのかもしれない。 ・前回描いた絵とは違った絵になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを全体で共有させる。 ・かげの棒ができる理由を全体で確認する。 ・場面はどこからみた映像なのか確認する。 ・調べたことを踏まえて、前回描いた絵に触れながら、新しく絵を描くよう促す。 	15
終末	5. 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・かげの棒は分からなかったけど、黄金の光とか光のあみはわかった。 ・宮沢賢治もこんな景色を想像しながらやまなしを描いたのかな。 ・川の世界がどんな世界なのかが前より分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返るよう促す。 ・振り返りを書けた人から片付けをすよう促す。 	5
			【評価（対象）】 宮沢賢治とやまなしの理解を深めることができたか。（ワークシート）	